

小学校生活・総合部会

部会長名 校長 益田 茂
実践者名 教諭 林 修平

1 研究主題

グローバル化が進む社会を生き抜く子どもが育つ国際教育の創造
～グローバルな視野・共生の視点を取り入れた学びの工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代的な課題から

情報化・国際化が急速に進む現代、人・物・資本・情報が今まで以上の速さと量で移動し、ものごとの規模は国家の枠組みを超え地球規模に拡大、世界的規模の相互依存と社会のグローバル化が、一層進んでいくと予想される。

また、2015年には、国連本部で持続可能な開発目標（SDGs）「世界を変革するための17の目標（地球上の誰一人として取り残さないことを誓うものです）」が採択された。

このような中、私たち一人一人は、国際社会の一員としての責任を自覚し、どのように生きていくかという点を一層強く意識していく必要があると考える。

(2) 教育の動向から

国際関係や異文化を単に理解するだけでなく、自らが国際社会の一員としてどのように生きていくかという主体性を一層強く意識することが必要となってきた。

そこで、義務教育9年間の段階において、すべての子どもたちが、

- ①. 異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる態度・能力
- ②. 自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立

③. 自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動することのできる態度・能力を身に付けることができるように、学校全体の教育活動を通じて取り組んでいくことが大切だと考えられている。

(3) 地域及び子ども達の様子

地域に住む外国人に対し、明るくあいさつを交わしたり、親しく会話をしたりしている地域の方や子ども達の姿を見かけることは、あまりない。これは、「言葉や文化の違いから、どのように話しかければ良いのか戸惑っている、または、分からない。」ことが大きな原因である。

そこで、学校教育において、「社会に開かれた教育課程」の一つとして国際教育を継続的に推進していくことで、地域におけるグローバル化が地域に住む外国人と共に良好な形で進んでいくのではないかと考える。

3 主題の意味

(1) グローバル化とは

「社会的・経済的に国や地域を超えて世界規模でその結びつきが深まること」であり、世界を国境のない「ひとつのもの」と捉えるようになること。

(2) グローバル化が進む社会とは

資本（お金・モノなど）や人材、情報と言ったもののやり取りが、国や地域といった垣根を超え、より世界規模で行われるような社会のことであり、社会的・経済的に地域（国境）を越えて、世界規模で結びつきが深まる社会のことである。

しかし、グローバル化が進む現代、世界は単一化よりも、むしろ多様化が進んでいるように考えられている。それは、国籍や民族の異なる人々、そしてそれぞれが持つ文化が、グローバル化する世界の中で互いに影響し合い、新しい価値観を生み出しているためである。

(3) グローバル化が進む社会を生き抜く子どもとは

グローバル化が進み、ますます多様化していく世界において、異なる文化を持つ人々が、互いの文化的違いや価値を受け入れ、尊重し、新たな関係性を創造することを目指す「多文化共生」の考え方が、重要な意味を持つようになってくる。

そのため、このように大きく変化する社会において、「逞しく一歩を踏み出すことができる子ども」こそグローバル化が進む社会を生き抜く子どもであると考えられる。

4 研究の目標

グローバル化が進む社会において、「逞しく一歩を踏み出して生き抜くことができる児童生徒」を育成すること。

5 研究仮説

グローバルな視野・共生の視点を、効果的に取り入れた学習を、9年間を通して、計画的に実施することで、グローバル化が進む社会を逞しく生き抜く子どもが育つであろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元「アフリカについて知ろう」

(2) 単元の目標及び指導計画

単元	アフリカについて知ろう	総時数	6 時間	時期	11 月
単元目標	<p>○アフリカと日本の人々の生活の違いについて興味をもち、進んでアフリカの先生方に質問することができる。</p> <p style="text-align: right;">(興味・関心)</p> <p>○アフリカの国々の人々の生活について調べたり、話を聞いたりすることを通して、アフリカの国々の人々の生活について知るとともに、日本の生活との違いに気付くことができる。</p> <p style="text-align: right;">(主体的・創造的な態度)</p>				
次	時	具体的な目標	学習内容・活動	指導上の留意点	
一	1	アフリカの国の人々の生活について、疑問を持ち、学習課題を設定する。	アフリカ検定クイズを行ったり、アフリカの国の人々の生活の様子を提示したりすることで、アフリカの国々の人々はどのような生活をしているのか疑問を持たせ、本単元の目標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの人々の生活について、興味を持たせる。 ・アフリカの国々について、子ども達の認知度の低さを認識させる。 	
	2	アフリカの先生方の出身国位置やアフリカの気候分布が分かる。	アフリカの国々の概要(位置、気候など)を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの先生方の出身国が大陸のどこに位置しているか確認させる。 ・アフリカの気候から、日本とアフリカの生活の違いについて、疑問を持たせる。 	
二	3	インターネットを使い、アフリカの生活について調べ、日本とアフリカの生活の違いが分かる。	日本とアフリカの生活の違いについて、調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活などを調べることを通して、他のことにも疑問を持たせる。 	
	4	班で話し合い、質問内容を決めたり、質問方法を考えたりする。	質問内容を友達と話し合いながら、絵やジェスチャーを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションを通して、アフリカの方との交流には、絵やジェスチャーが大切であることを理解させる。 	

				・絵やジェスチャーを工夫・改善するために、班で話し合わせる。
三	5	自分たちの考えた質問方法でアフリカの先生方に進んで質問することができる。	アフリカの国々の人々に質問をし、アフリカの国々の人々の生活について理解する。	・絵やジェスチャーを使って、アフリカの先生方に質問させる。
四	6	学習してきたことをわかりやすく新聞にまとめることができる。	調べたことをまとめる。	・学習を通してわかったことや、日本とアフリカの生活の違いについてわかったことを書かせる。

7 指導の実際

(1) 問いづくりの工夫

アフリカ検定クイズを行ったり、アフリカの国の人々の生活の様子を提示したりすることで、アフリカの国々の人々はどのような生活をしているのか疑問を持たせ、調べたいという意欲をもたせた。クイズの中では、全問正解する子は少なかった。クイズの正解から子ども達に、アメリカ合衆国やヨーロッパ諸国と比べ、アフリカの国々の認知度が低いことを確認させることができ、本単元の学習の見通しを持たせることができた。

(2) 思考づくりの工夫

活発な思考づくりができるように、一人で質問内容や質問方法を考える時間を確保し、その後班で話し合い活動をする時間を設定した。そこに考えた質問方法（ジェスチャー、イラスト、簡単な英語）を使って、他の先生方に質問をした。最初は、自分の考えた質問が先生方に伝わらず苦戦していたが、そのたびに相手に伝わるように質問方法を工夫・改善することができた。結果、子ども達は連続して思考することができた。



子どもが考えたイラスト

(3) 価値づくりの工夫

単元の途中で、先生方に班で考えた質問をし、先生方から他者評価を受け、その後の学習活動への意欲付けを図った。先生方に質問をすることで、的確なアドバイスや称賛を受け、自信につながった。また、子ども達がアフリカの方に質問をするという意欲付けにもなった。

8 成果と今後の課題

- 授業後の感想から「アフリカの先生方に伝わって良かった。まだ話がしたかった。」「アフリカの先生方はおもしろい。」等の振りかえりがあり、子ども達は日頃交流することのないアフリカと楽しんで交流することができ、充実した時間を過ごすことができた。



質問している様子

- 事前アンケートから「外国の人と進んで話をすることができたか？」という問いに「はい」と答えた児童は34%しかいなかったが、事後アンケートでは、「アフリカの先生方に進んで話したり、質問したりすることができたか」の問いに約87%の児童が「はい」と答えている。学習を通して、絵やジェスチャーなど質問方法を考えさせ、それらを使って、何度も練習したことが子ども達の自信につながったと考える。また、アフリカの先生方との交流の時には、班で行動させたことで協力して質問することができた。



ジェスチャーを使って
質問している様子

- 事後アンケートから、アフリカの先生方の話していることは87%の児童がおおむね理解することができ、質問するだけでなく、相手の話をしっかり聞くことができた。

- 事後アンケートから、一部の児童が進んで質問することができなかった。交流の際には、アドバイスをしたり、一緒に質問したりするなどの支援が必要であった。

- 調べ学習の際に、アフリカの人々の生活に関する情報が少なく、調べ学習が十分にできなかった。私自身の調査不足であり、インターネットだけでなく、書籍など様々な資料を準備しておく必要があった。

- 本単元を学習して、まとめる段階での『日本とアフリカの生活の違い』について、記述が少なかった。まとめを書かせる前に、日本とアフリカの生活の違いについて確認する必要があった。また学習を終えて、今後の自分自身の生き方につながるような事後指導が充分でなかった。